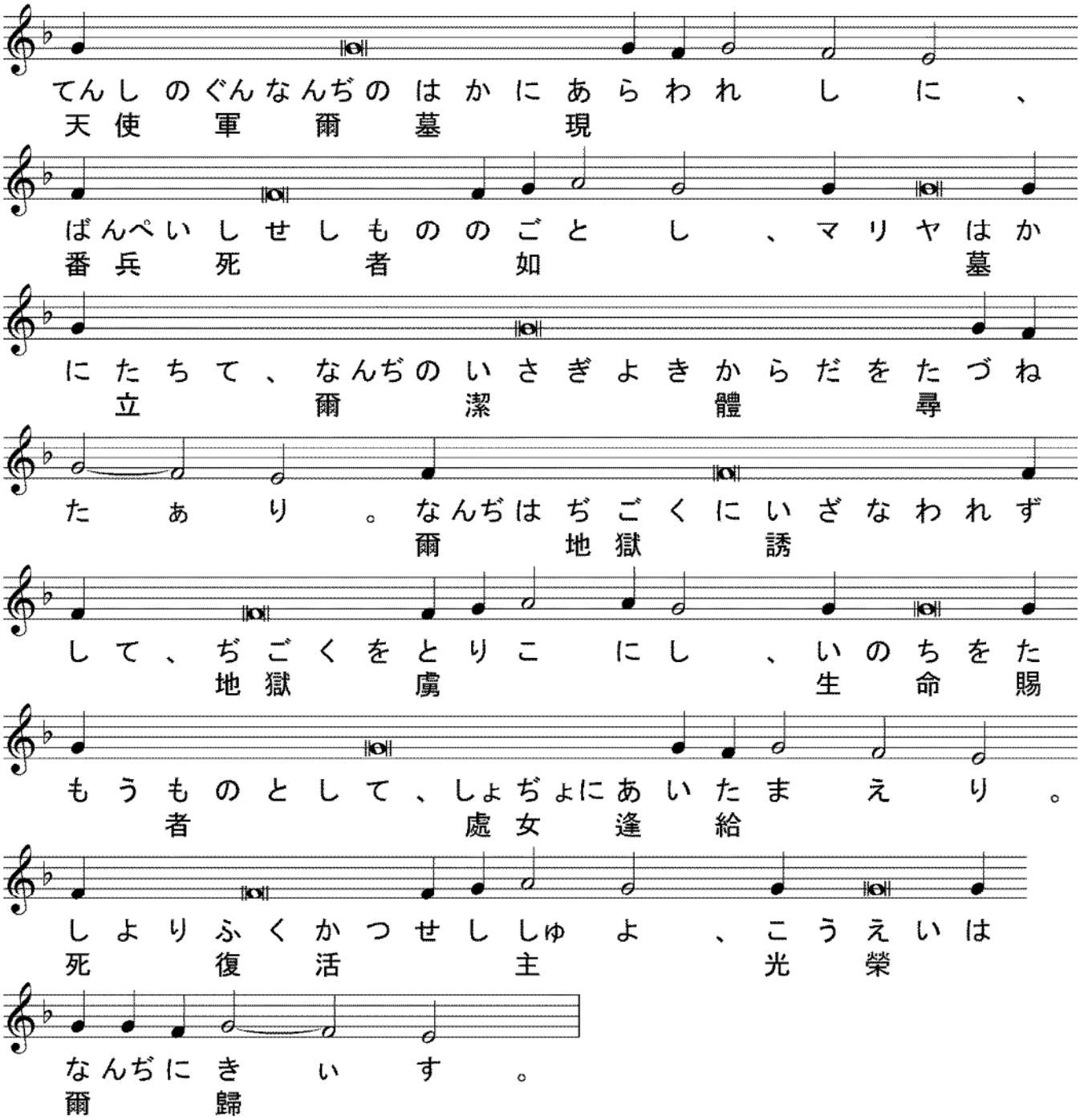
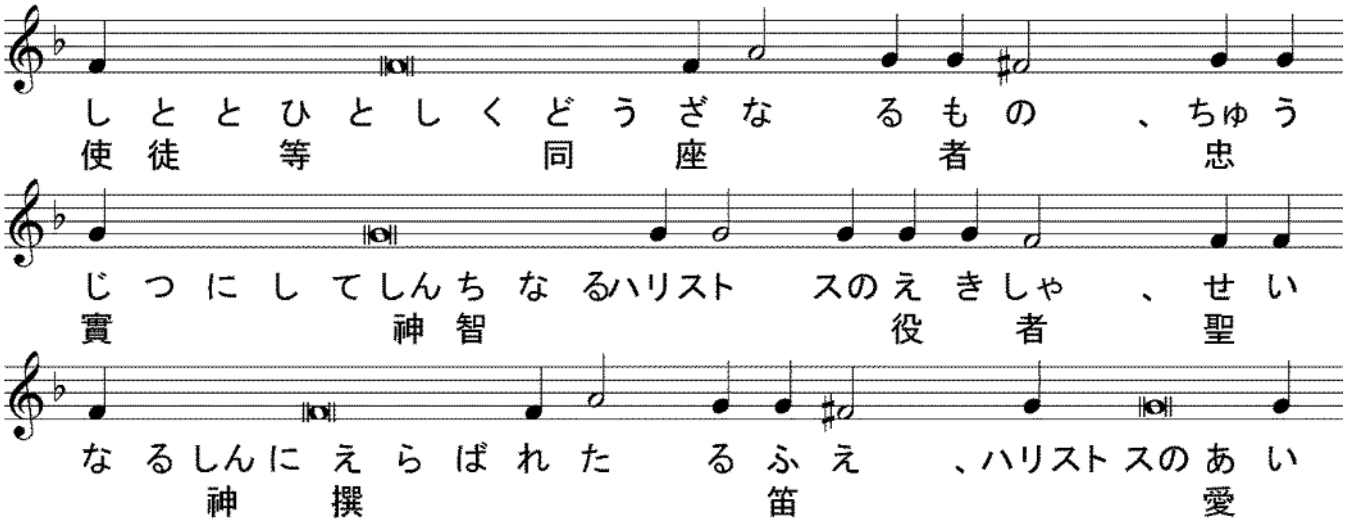
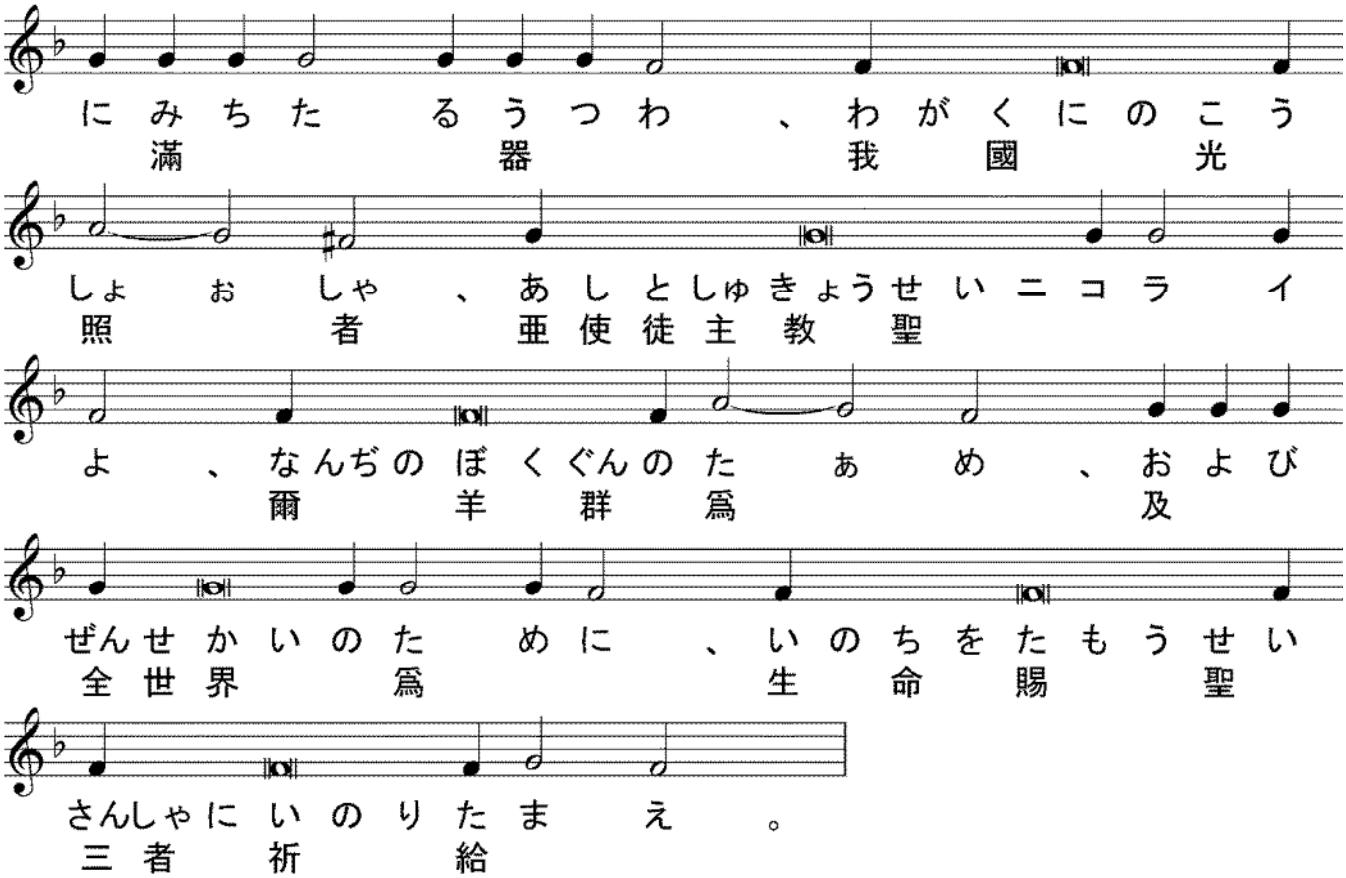
【　復活のトロパリ　第６調　】

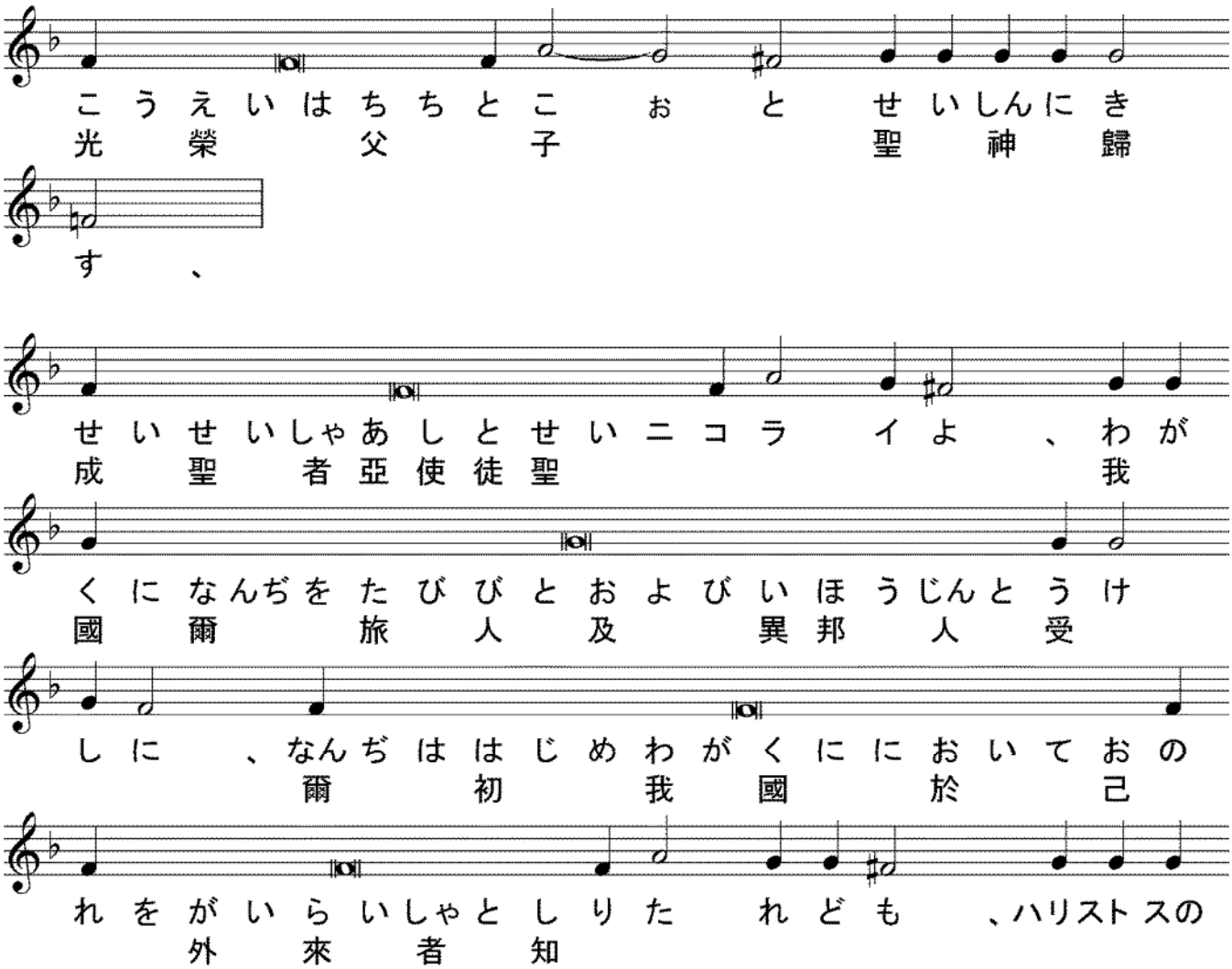


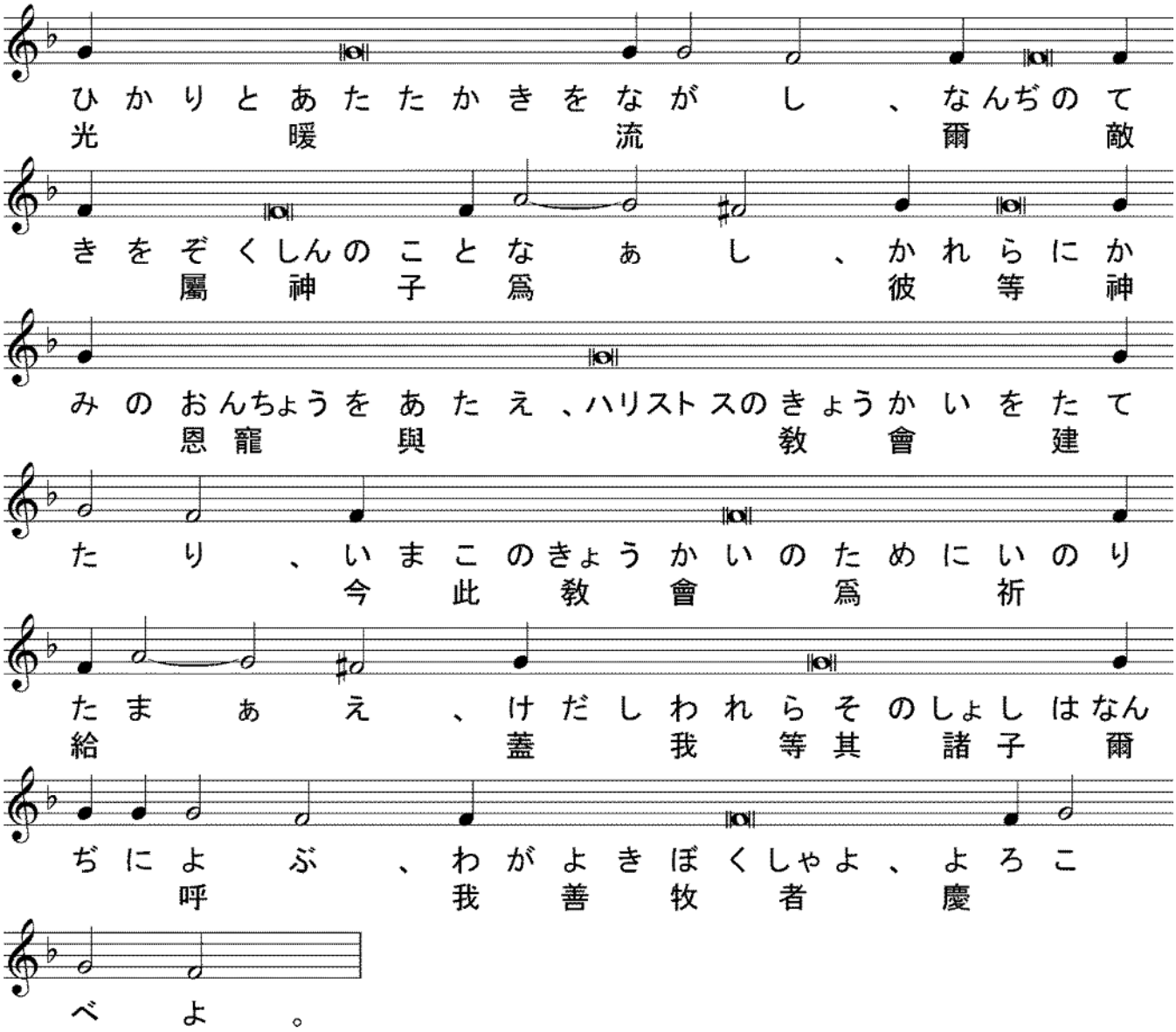
【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



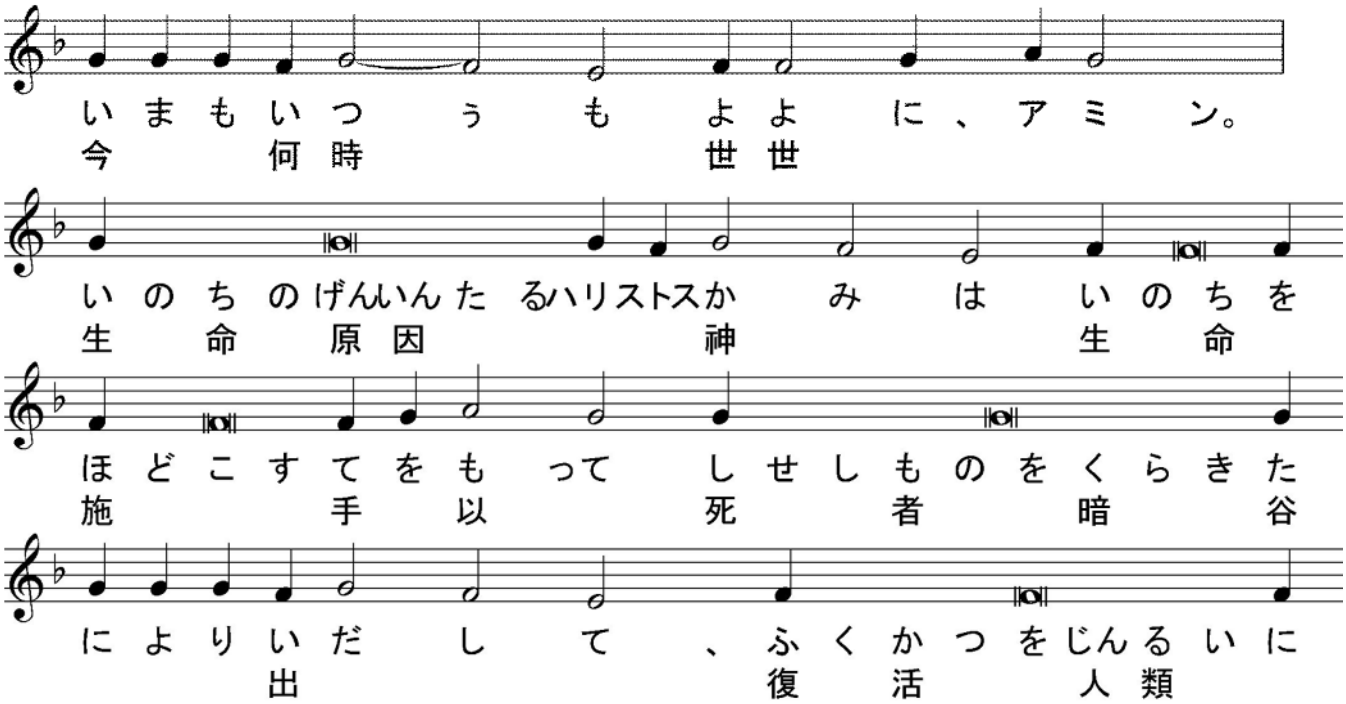


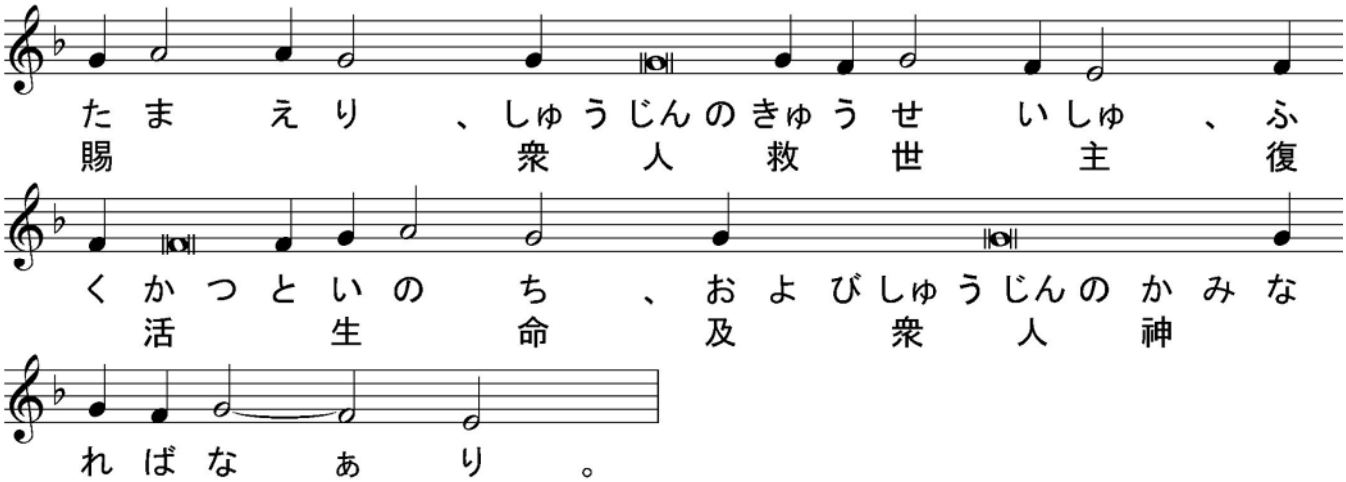
【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】




ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖流爾敵
きをぞくしんのことなぁし、かれらにか
屬神子爲彼等神
みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建
たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまぁえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

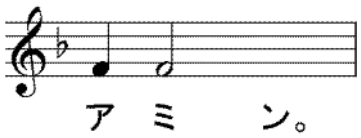
【　復活のコンダク　第６調　】


いまもいつぅもよよに、アミン。
今何時世世
いのちのげんいんたるハリストスかみはいのちを
生命原因神生命
ほどこすてをもってしせしものをくらきた
施手以死者暗谷
によりいだして、ふくかつをじんるいに
出復活人類

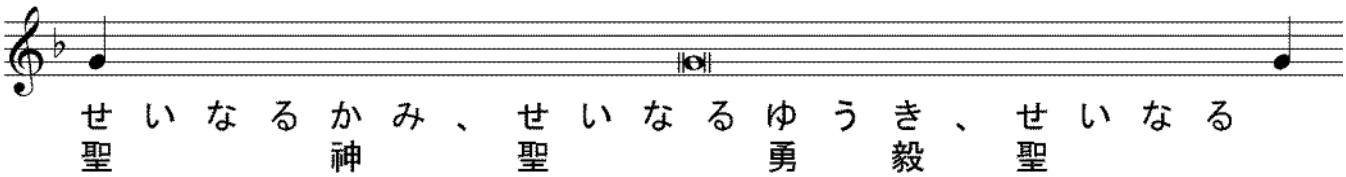


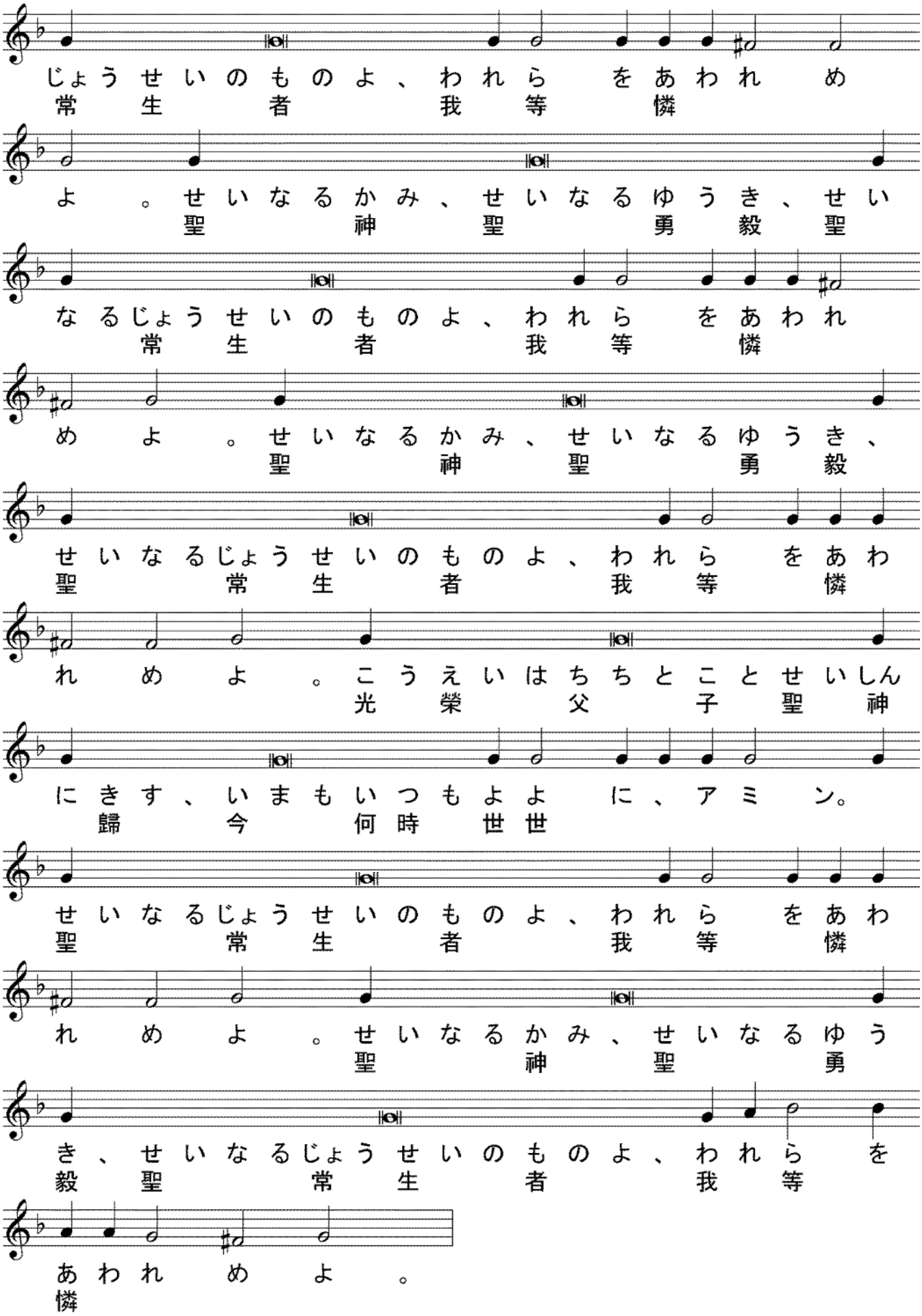
司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭） **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】





司祭)（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

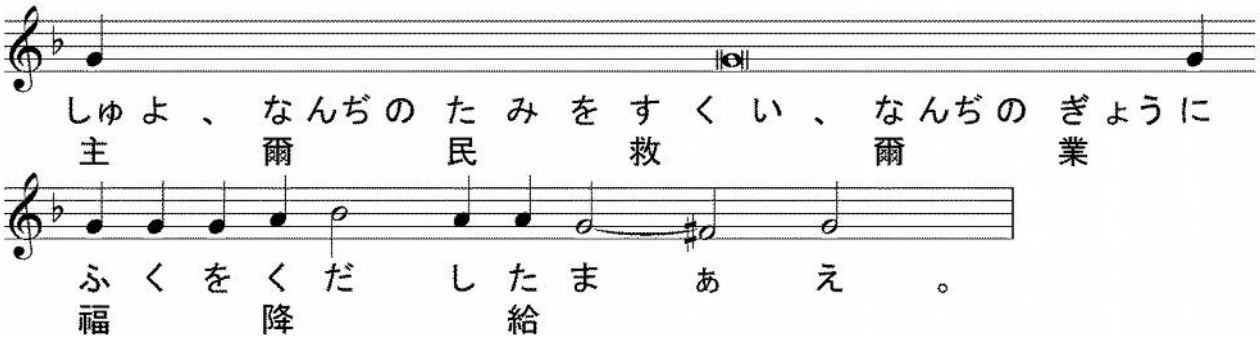
【　提綱　主日第６調　】

司祭）　慎みて聽くべし、衆人に平安、

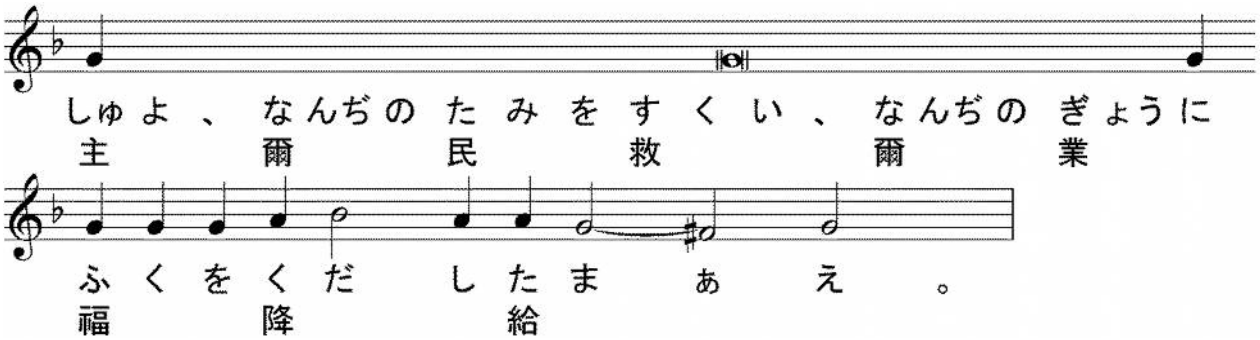
誦經）　爾の神にも、

司祭）　睿智、

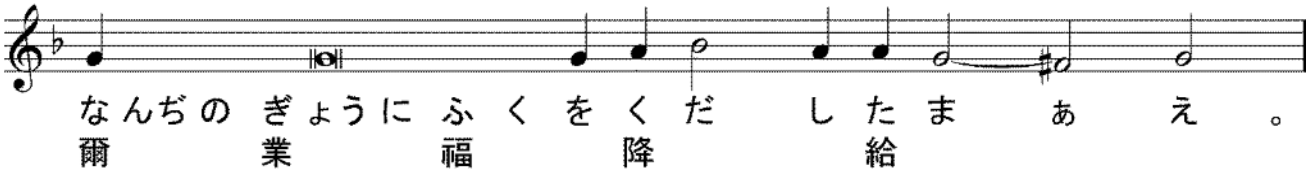
誦經）　プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、



誦經）　主よ、我爾に呼ぶ、我の防固よ、我が爲に默す毋れ、



誦經）　主よ、爾の民を救い、



【　使徒經　220端　エフェス書２章４節～10節　】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）　謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、矜恤に富める神は、其我等を愛する大なる愛に縁りて、我等罪に由りて死

せし者をハリストスと偕に生かせり、爾等恩寵を以て救われたり、彼と偕に復活せしめ、ハリストス・イイススに在りて天に坐せしめたり、未來の世に於て、其ハリストス・イイススに在りて我等に施しし仁慈を以て、恩寵の溢れたる富を示さん爲なり。蓋爾等は恩寵を以て信に由りて救われたり、是れ爾等に由るに非ず、神の賜なり、行に由るに非ず、人の誇ることなからん爲なり。蓋我等は彼の造りし者にして、ハリストス・イイススに在りて善き功の爲に造られたり、即神が我等の行わん爲に、預め備えし所なり。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし――あなたがたの救われたのは、恵みによるのである――キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

＊＊

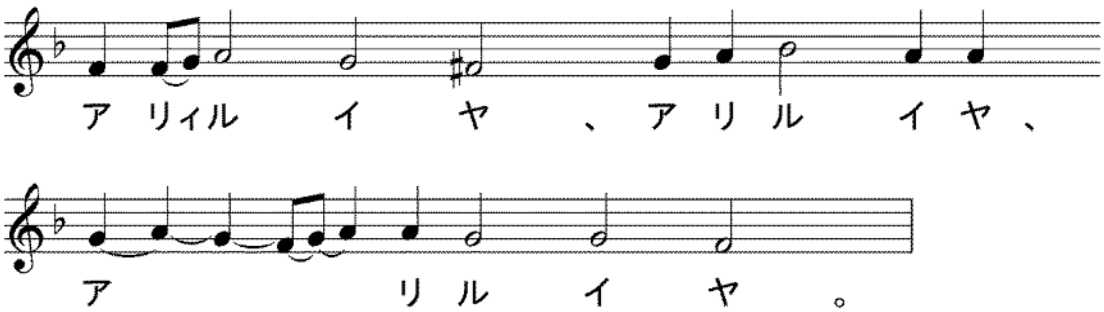
【　アリルイヤ　主日第６調　】

司祭）爾に平安、

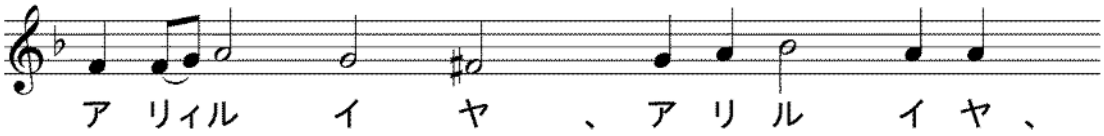
誦經）爾の神にも、

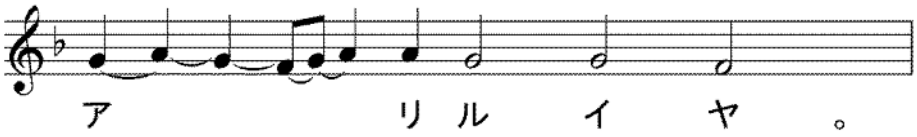
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、

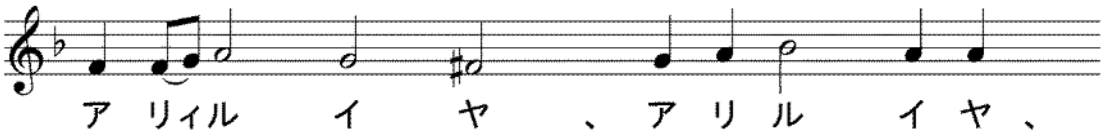


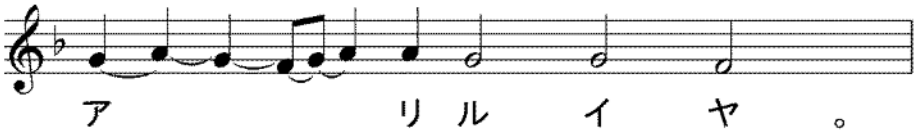
誦經）至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、





誦經）主に謂う、爾は我の避所、我の防禦、我が賴む所の我の神なりと、

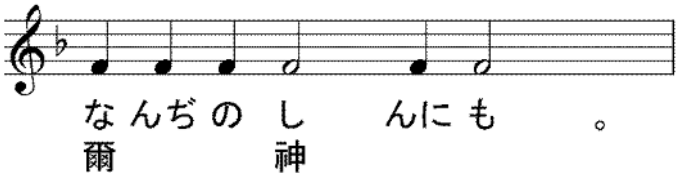




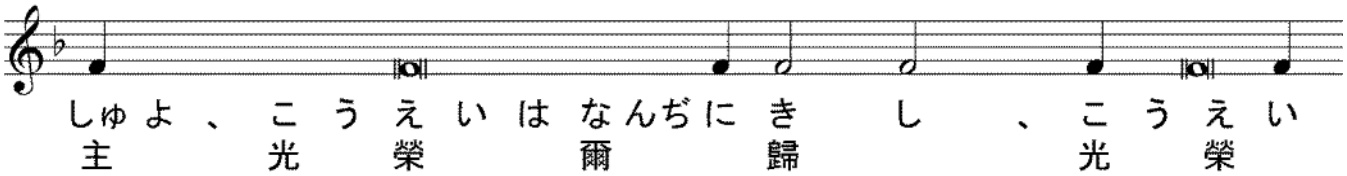
司祭）（ 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

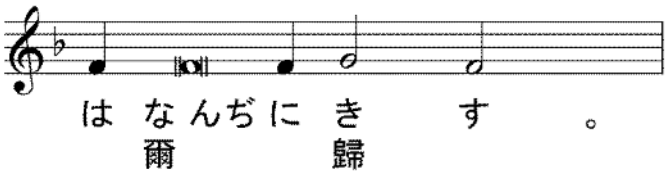
【 福音經（エヴァンゲリオン） ルカ福音書38端 8章26～39節 】

司祭）睿智、粛みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、





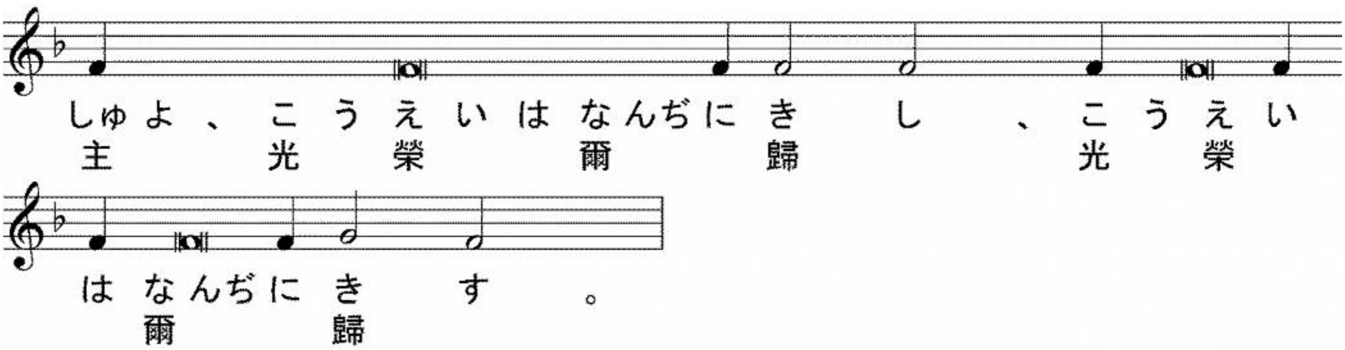
司祭） 謹みて聽くべし、彼の時イイススがガリレヤに對えるガダラの地に來りて、彼が岸に登りし時、邑の一人の者彼を迎えたり、乃久しく魔鬼に憑られ、衣を衣ず、家に住まずして、墓に住める者なり。此の人イイススを見て號び、彼の前に俯伏し、大なる聲を以て曰えり、至上なる神の子イイススよ、我と爾と何ぞ與らん、爾に求む、我を苦しむる勿れ。蓋イイススは汚鬼に此の人より出づるを命じたり、其彼を拘えしこと久しければなり。彼を守りて、鐵索と桎梏とに繋ぎたれども、彼繋を斷ちて、魔鬼の爲に野に逐われたり。イイスス彼に問いて曰えり、爾の名は何ぞ、彼曰えり、大隊、多くの魔鬼彼に入りたればなり。魔鬼はイイススに、彼等に淵に往くを命ぜざらんことを求めたり。彼處に豕の大群の山に牧われたるあり、魔鬼は彼に、其中に入るを許さんことを求めたれば彼之を許せり。魔鬼人より出でて、豕に入りしに、群は山坡より湖に逸けて溺れたり。牧う者有りし事を觀て、奔り往きて、邑及び諸村に告げたれば、人人有りし所を觀ん爲に出で、イイススに來りて、魔鬼の出でたる人が衣を着、心慥にして、イイススの足下に坐せるを見て、懼れたり。見し者は魔鬼に憑られたる人の如何に愈されしを告げたれば、ガダラ地方の民は、皆イイススに彼等を離れんことを請えり、大に懼れし故なり。彼舟に登りて返れり。魔鬼の出でたる人は彼と偕に居らんことを求めたれども、イイスス之を去らしめて曰えり。爾の家に歸りて、神が如何なる事を行いしを告げよ。彼往きて、全邑にイイススが彼に如何なる事を行いしを宣べたり。

＊＊

（比較用　口語訳）彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いです、わたしを苦しめないでください」。それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野

へ追いやられていたのである。イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。ところが、そこの山べにおびただしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

＊＊



※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ